

清須市はるひ美術館

〒452-0961 愛知県清須市春日夢の森1番地 TEL 052-401-3881
2022年

6月25日(土)ー8月21日(日)

開館時間 10:00ー19:00 (入館は18:30まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は開館、翌平日が休館)

一般 700円(600円) / 大学・高校生 500円(400円) / 中学生以下無料

※()内は20名以上の団体及び清須市立図書館貸出利用カード提示者の割引料金 ※各種障がい者手帳等提示者及び付添人1名は無料

主催:清須市はるひ美術館

※清須市はるひ美術館はTRC・名古屋三越グループ共同事業体が管理・運営しています。

水木壘

MIZUKI Rui

1983年京都府生まれ。2006年京都市立芸術大学美術学部漆工科卒業。2016年京都市立芸術大学大学院美術研究科メディア・アート領域博士号取得。主な展覧会に、「都市のモザイク」ARTZONE(京都、2019)、「鏡と穴ー彫刻と写真の界面 vol.3 水木壘」gallery αM(東京、2017)、「水の情景ーモネ、大観から現代まで」横浜美術館(神奈川、2007)など。

1986年兵庫県生まれ。2012年京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。主な展覧会に、「からだの中のさかな」FINCH ARTS(京都、2021)、「清流の国さぶ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 2017」岐阜県美術館(2017)、「新・陶・宣言」豊田市美術館(愛知、2011)など。

TANIMOTO Mari

谷本真理



清須市はるひ美術館 特別展

ONーものと身体

《pillow message》2021年 撮影:米田隆

日々の生活の中で目している「もの」たち。わたしたちは身の回りのものについて、そのようすを見たり、音を聞いたり、かたちを手で触れたりしながら、身体を通してどのような状態にあるのかを認識しています。日常生活の中では、そのようなもの状態について特別に意識することは少ないかもしれませんが、しかし、ひとたび何かを作ることを考え始めると、ものともものが接していたり、こすれ合ったり、ものの表面を流れたり転がったりということが、普段よりも少し大きなこととして意識されます。本展では、そのようなものさまざな状態について、特に何かと何かが接しているようすを示す「ON」をキーワードに、現代作家の作品を通して、いまわたしたちが目や耳や皮膚で触れていることについて考えます。

本展で紹介する4名の現代作家は、日常生活の中で自身の身体を使ってものに触れ、その状態に感性をはたらかせ、新たな感触を探りながら作品を制作しています。水木壘は、地面や壁といった街の表面と身体を触れ合わせることで受け取る情報を、写真や絵画の手法に置き換えながら視覚的な作品に落とし込んでいきます。谷本真理は、粘土や絵具を扱いながら、一度できたかたちに別の力がはたらくことで、崩れたり変化することを受け入れて作品に取り込みます。(裏面に続く)



Between objects and bodies, from various "ON"s.

(表面からの続き) 文谷有佳里は、ペンや鉛筆で紙の表面に触れ、自身の身体感覚をともなったりズムに沿って、連続した線やかたちを絶え間なく生成していきます。時里充は、身の回りのものごとに含まれる、動きや音などの要素同士の接点を見つめ、解きほぐし、別の状態に置き換えることで生まれるズレや違和感に着目します。

わたしたちは2020年から、「触れること」についてこれまでとは違った実感を持ちながら過ごしてきました。何かを「作ること」やそれを伝えるための言葉もまた、「触れること」とともに変化していくのでしょうか。

ものと身体が触れることで生まれる、かならずしも言葉だけでは表すことのできないさまざまな状態について、作家の表現から思いを巡らし、「いま、触れて作ること」について改めて探ります。

《なにもない風景を眺める》2016.2.8 2016年

文谷有佳里

BUNYA Yukari

1985年岡山県生まれ。2008年愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻卒業。2010年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。主な展覧会に、「あいちトリエンナーレ2019 情の時代」愛知県美術館(2019)、「トランス／リアルー非実体的美術の可能性 vol.6 文谷有佳里」gallery αM(東京、2016-2017)、「ポジション2012名古屋発現代美術〜この場所から見る世界」名古屋美術館(愛知、2012)など。

《ハブメント》2021.10.19 2021年

1990年兵庫県生まれ。2010年岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー[IAMAS]卒業。2012年多摩美術大学情報デザイン学科卒業。主な展覧会に、第12回恵比寿映像祭「時間を想像する」東京都写真美術館(2020)、「見た目カウント」トレーニングス千鳥文化(大阪、2020)、「ICCキッズ・プログラム2019」見る、楽しむ、考えるスポーツ研究所NTTインターコミュニケーション・センター[ICC](東京、2019)など。美術作家小林椋とのユニット「正直」としても活動。

TOKISATO Mitsuru

時里充

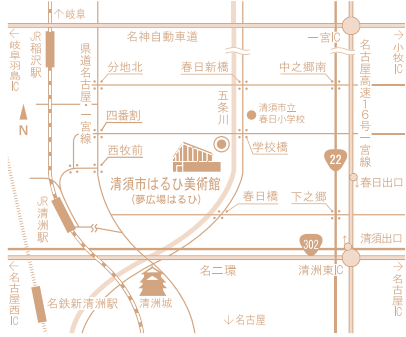
本、接点から

関連イベント
[ギャラリートーク]

担当学芸員が展示会場
作品についてご紹介します。
7月9日(土)14:00-
7月22日(金)17:30- (各回40分程度)
場所: 清須市はるひ美術館
対象: どなたでもご参加いただけます。
(参加には観覧券が必要です。)

他、出品作家によるワークショップ等イベントを開催
予定です。詳細は当館ウェブサイトにて随時お知らせ
いたします。
※参加者が多い場合は人数制限を設ける場合があります。
※新型コロナウイルス感染症等の影響により開催内容が変更
になる場合があります。

〇〇〇 夢広場はるひ
清須市はるひ美術館
〒452-0961
愛知県清須市春日夢の森1番地
TEL: 052-401-3881
http://www.museum-kiyosu.jp



●電車でお越しの場合
・JR東海道本線「清洲駅」下車
→徒歩約20分または「きよす
あしがるバス」をご利用ください
・JR東海道本線「稲沢駅」下車
→タクシーで約10分
・名鉄本線「新清洲駅」下車
→タクシーで約10分
●車でお越しの場合
・名二環、清洲東ICより約5分
・名神高速道路、一宮ICより約
20分
・名古屋高速道路、一宮からは
春日出口より約5分、名古屋から
は清須出口より約5分
※無料駐車場をご利用ください
(104台)

